

4年生 [総合_身近なバスと私たちの暮らし] (札幌市立山の手南小学校)

札幌らしい交通環境学習とは、「MM※教育」に着目し、「交通」の中に存在する「社会的ジレンマ問題」を通じ、広く、環境意識や公共の精神を醸成することを目的としている。初等教育における学習教材として適することが、これまでの研究事例等で明らかとなっている。

※「MM」とは、一人ひとりの移動（モビリティ）が、個人的にも社会的にも望ましい方向へ自発的に変化することを促すコミュニケーションを中心とした交通施策。

■実施例

実施校 札幌市立山の手南小学校

実施日 2013年7月4日（木） 5校時

科目/単元名 総合的な学習の時間
「身近なバスと私たちの暮らし」[6時間扱い 本時 4/6]

指導者 佐野 浩志

[指導計画]

1.教材にかかわって

①学習指導要領の位置づけ

[小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編]

●第4章指導計画の作成と内容の取扱い 指導計画の作成に当たっての配慮事項（5）

学習活動については、学校の実態に応じて、例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動、児童の興味・関心に基づく課題についての学習活動、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特徴に応じた課題についての学習活動などを行うこと。

総合的な学習の時間では、各学校において指導計画を作成し、そこには内容として、目標の実現のためにふさわしいと各学校が判断した学習課題を定める必要がある。この学習課題とは、(中略)横断的・総合的な学習のとしての性格をもち、探究的に学習することがふさわしく、そこでの学習や気づきが自己の生き方を考えることに結びついていくような、教育的に価値のある諸課題のことである。(中略)地域や学校、児童の実態に応じて内容を設定し、具体的な学習活動として展開することが求められる。(以下、略)

①モビリティ・マネジメント教育の視点から

札幌市の公共交通の始まりは明治42年の馬車鉄道から始まる。その後、この馬車鉄道が民営の電車で置き換えられ、この電車事業所を引き継いで市営交通が発足した。その後、昭和5年にはバス事業も始まり、札幌市民の重要な足としての役割を担ってきた。また、札幌市の発展に伴い昭和46年には地下鉄が開業。それ以降、地下鉄を軸としてバスが地下鉄を補うという札幌の公共交通機関網が確立された。

札幌市では、公共の交通機関を使って市街地の実に99%の場所にアクセスが可能である。しかし近年急激なモータリゼーションの影響を受け、バス路線のほとんどを維持しながらも乗車人数がどんどん減っていくという状況が続いている。2010年のバス乗車延べ人数は105百万人余りとなっており、1975年を基準に考えるとほぼ半減していることとなる。その一方で、人口は増え続け、市街地も規模を拡大しているために、路線延長に顕著な減少はない。さらに、同時期に自動車の保有台数は約3倍に増えている。自動車保有台数に影響を受ける形で、バスの乗車人数は減り続け、郊外では路線の減少も始まっている。今後利用者が減り続ければ、交通難民も増え、自動車を持たない市民にとっては大きな問題となることは明らかだ。路線を維持していくことが公共交通の役割である一方、利用者数が伸び悩めば路線の減少もとめられない。このような社会的ジレンマの解決の一助となるように、札幌市の公共交通機関のよさを実感することを通して、その重要性に迫る学習を構築する。

②資料の活用

本実践では、教科書内に札幌市の公共交通について4年生の児童が自分で調べて考える事を保証できるような単元がないために、子どもたちの学習を支える資料としてテキストを作成した。テキスト作成のポイントは以下の通り

①子どもの思考の流れに沿った展開 ②札幌市の公共交通の歴史が見える単元構成

③子どもが自分で調べ、考える事のできる、ナビゲーション機能 ④単元の終末に考えを深める学習の構成

公共交通は子どもたちにとって、身近にはあるが、なかなか背景や、意図は見えていないものである。モビリティマネジメントの観点から子どもたちに時間軸を意識させる事で、未来へ持続的につなげることのできる学習を構成できると考えた。

自分の祖父母、父母にインタビューをしたり、資料で調べることを通して、今の公共交通がどのように移り変わってきたのかが実感的に理解できる。またそのことと、現在札幌市の公共交通が抱えている問題点を関連付けて考える事で未来へ向けて自分たちの考えを深めることができるようなテキストの構成とした。

2.単元にかかわって

●単元の目標

- ・札幌市の公共交通機関に関心をもち、意欲的に調べている。
- ・札幌市の公共交通の果たす役割について考え、適切に表現している。
- ・札幌市の公共交通の移り変わりについて必要な情報を集め、読み取っている。
- ・札幌の公共交通のよさを知り、札幌市の人々の生活の様子を理解している。

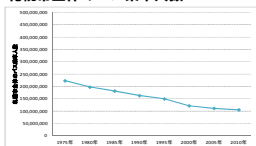
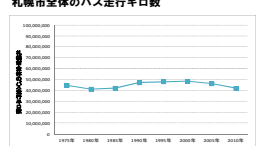
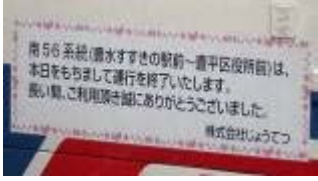
●単元の構成

	子どものおもな活動	子どものおもな活動
昔の暮らしについて興味を高める（1時間）	<p>札幌市交通資料館に行ってみよう</p> <p>*見学が難しい場合はHP等を利用する</p> <p>札幌の公共交通はいつ頃どのように始まったの？</p> <p>馬車で車を引いているね</p> <p>線路があるね</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初の電車は木製だったんだね ・地下鉄ができたのはお父さんやお母さんが生まれた頃だったそうだよ ・昔のバスには車掌さんがいたよ <p>札幌市の公共交通はどのように発達してきたのだろう。</p>	<p>札幌市のバスはいつ頃できてどのように変わっていったのか調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗合自動車とよばれていたんだね。 ・車掌さんがいたそうだよ。 ・市営バスが廃止になったね。 <p>利用する人が減ってきているね。</p> <p>札幌市ではどうして、乗車人数が減っている中でも路線を残し続けるのだろう。</p> <p>【だれでも】小学生でもおじいちゃんでも</p> <p>みんなが利用できる</p> <p>【いつでも】時刻表があれば一日何本も</p> <p>【どこへでも】札幌ドームも</p>
昔の乗り物や暮らしについて知る（3時間）	<p>札幌市の路面電車の移り変わりを調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・馬車鉄道は石山軟石を運んだんだね。 ・市電になったのはすいぶん前だね。 ・今よりも市電で行ける場所はたくさんあるよ <p>長い間札幌市民の足として活躍しているね。</p> <p>札幌市の地下鉄はいつ頃できてどのように変わっていったのか調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックが開かれたよ ・そのため、地下鉄ができたよ <p>便利な暮らしになってきて、環境も大きく変わったんだね</p>	<p>札幌市の公共交通について考える</p> <p>（本時）</p> <p>札幌市民みんなにとって公共交通は大切なんだね</p> <p>実際にえきバスナビを使いこなしてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・札幌ドームへの行き方が分かったよ ・今度、おじいちゃんの家へえきバスナビを使って行ってみよう ・お家の人にも教えてあげよう <p>えきバスナビを使うと簡単に色々な所へ行くことができそうだね</p> <p>札幌市の公共交通の便利さを実感する（1時間）</p>

3. 本時の目標と学習展開

●目標

- ・バスの乗車人数がどんどんへり、赤字路線が多くなる中でも、札幌市が補助金を出して、赤字路線を残そうとしている事の意味を考えることから、未来の自分たちにとっての公共交通のあり方について考える事ができる。

学習展開と児童の思考の流れ	教師のかかわり
<p>前時までに子どもたちは札幌市の公共交通についての歴史について調べ、バスが、札幌市民の足として古くから利用されていたことを理解している。</p>	<p>○子どもたちが問いを持つ事ができるように、札幌市全体のバスの乗車人数が年々減ってきている事実の提示とその一方で、路線のキロ数に大きな変動のない事実の提示をあわせてする。</p>
<p>札幌市全体のバス乗車人数</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・バスに乗る人がどんどん減っている。 ・路線はそんなに変わっていないね。 <p>札幌市全体のバス走行キロ数</p> 	<p>○札幌市が赤字路線に 6 億円超の補助金を出している事実の提示から問題意識を醸成する。</p>
<p>札幌市では毎年 6 億 4 千万円も損をしているのにバス路線を残している</p> <p>バスに乗る人が少なくて、損をしているのに、バスの路線を残しているのはどんな意味があるのだろう</p>	<p>○子どもの考えを「だれでも」という視点と「いつでも」、「どこへでも」という視点に分けて引き出し、板書に類分けする。</p>
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="119 828 486 1019"> <p>【だれでも】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆小・中学生や高校生でも ◆おとしよりも ◆体が不自由な人でも </div> <div data-bbox="486 828 1069 1019"> <p>【いつでも】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆映画を見るときは ◆お父さんの出張の時に ◆時刻表があれば ◆一時間に何本も </div> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>【どこへでも】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆さくらんどもホリデーリングで ◆札幌ドームやおじいちゃんの家まで </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>札幌市のほぼ 100%の場所に公共交通機関で行くことが可能</p> </div>	<p>○「だれでも」、「いつでも」、「どこへでも」の見方や考え方を確かにするために子どもの考えを切り返し、ゆさぶっていく。</p>
<p>○このままだとどんどん路線がなくなり続けるのでは？</p> <p>【いつまでも】</p> <p>どうなることが自分たちの未来にとって一番いいのだろう</p> 	<p>○「市街化区域における公共交通機関へのアクセス状況」のグラフの提示から、公共交通機関で札幌市内で人が生活している場所のほぼ 100%の場所に行くことができる事実を押しやる。</p>
<p>札幌市はだれでも、いつでも、いつまでも利用できるようにバス路線を考えているんだね</p>	<p>○「バス乗車人数と自動車保有台数」のグラフの提示から、未来の札幌市にとってどうしたらよいか考える場の構成をする。</p>

板書計画

バスに乗る人が少なくて、損をしているのに、バスの路線を残しているのはどんな意味があるのだろう

【だれでも】

- ◆小学生でも
- ◆おじいちゃんでも

みんなが利用できる

【どこへでも】

- ◆札幌ドームへ

【いつでも】

- ◆時刻表があれば
- ◆一時間に何本も

【いつまでも】

札幌市はだれでも、いつでも、どこへでも、そして、いつまでも利用できるようにバス路線を考えているんだね

4.本時で活用する資料

●本時で活用する資料

